

宮城県感染症発生動向調査情報(第47週)

宮城県【平成25年11月28日】発行

宮城県保健環境センター

TEL (022)257-7228

- 2013.11.18 ~ 11.24 ・ 第47週 -

上段は患者発生数、下段は定点当り

疾病	保健所										宮城県(含む仙台市)			
	仙南	塩釜	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼	患者数	患者数	累計	第44週	第45週	第46週	第47週
水痘		16	6		3	15	2	12	54	2,937	○→	○→	○→	◎
流行性耳下腺炎	2	3			3			22	6	1,034	→	○→	○→	○
百日咳											→	→	→	
感染性胃腸炎	7	30	14	9	39	13	5	67	184	13,588	◎→	◎→	◎→	◎
手足口病	10	8	9	5	7			12	51	4,510	◎→	◎→	◎→	◎
伝染性紅斑	1	7		2	6			27	43	671	→	○→	○→	○
突発性発しん	1	3	5	1	3	6		15	34	1,740	○→	○→	○→	○
ヘルパンギーナ		3						3	3	2,092	→	→	→	
インフルエンザ	5					1		1	7	15,703	→	→	→	
咽頭結膜熱		2	3					4	9	706	→	→	→	
流行性角結膜炎								0.15	0.16		→	→	→	
急性出血性結膜炎											→	→	→	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12	22	5	11		22		55	127	4,446	◎→	◎→	◎→	◎
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)											→	→	→	
無菌性髄膜炎											→	→	→	
マイコプラズマ肺炎		3	3	1			9		16	843	→	→	→	
クラミア肺炎(オウム病は除く)		3.00	3.00	1.00			9.00		1.33		→	→	→	
RSウイルス感染症	20	12	1		1	2		31	67	1,054	○→	○→	○→	◎
拡張疾病		1	5				2	9	2		◎: 流行の変化について、今後の情報に十分注意 ○: 発生または流行について、今後の情報に留意 レ: 発生が少なくなっている傾向			
不明発疹症		1						7			【週報の詳報】宮城県保健環境センターのホームページをご覧ください。 http://www.ihe.pref.miyagi.jp/~kansen-center/			

※ 法改正により、平成25年10月14日より、ロタウイルスが原因の感染性胃腸炎について、基幹定点より報告を求められることになりました。

定点把握の対象となる5類感染症(全国 第45週)

(国立感染症研究所感染症情報センターホームページより抜粋)

インフルエンザ: 定点当たり報告数は3週連続で増加した。都道府県別の上位3位は沖縄県(0.93)、愛媛県(0.70)、岐阜県(0.62)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は6例と前週と同値であった。都道府県別では4県から報告があり、年齢別では0歳(3例)、1~9歳(2例)、40代(1例)であった。**RSウイルス感染症:** 報告数は3,637例と減少した。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約73%を占めている。**咽頭結膜熱:** 定点当たり報告数は横ばいであったが、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は宮城県(1.78)、鹿児島県(1.07)、島根県(1.04)である。**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎:** 定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は山形県(3.50)、鳥取県(2.26)、山口県(2.23)である。**感染性胃腸炎:** 定点当たり報告数は横ばいであった。都道府県別の上位3位は宮城県(13.97)、熊本県(7.96)、愛媛県(7.65)である。**水痘:** 定点当たり報告数は横ばいであった。都道府県別の上位3位は岩手県(2.10)、新潟県(1.98)、福井県(1.59)である。**手足口病:** 定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は鹿児島県(4.00)、宮城県(2.81)、佐賀県(2.78)である。**百日咳:** 定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位2位は大分県(0.06)、千葉県(0.05)、福井県(0.05)である。**ヘルパンギーナ:** 定点当たり報告数は第31週以降減少が続いている。都道府県別の上位2位は徳島県(0.35)、大分県(0.31)、宮城県(0.31)である。**マイコプラズマ肺炎:** 定点当たり報告数は2週連続で減少した。都道府県別の上位3位は宮城県(1.42)、福島県(1.29)、岩手県(1.26)である。**感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る):** 2週連続で増加した。都道府県別では8都府県から9例、年齢別では0歳(2例)、1~4歳(5例)、5~9歳(1例)、50代(1例)であった。

* 全国の指定された医療機関(小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)の集計結果です。()内の数字は定点当たり報告数となります。

今週の全数報告疾病

- 1類感染症: 報告なし
2類感染症: 結核
- 塩釜管内 女性2名
 - 大崎管内 女性1名
 - 仙南管内 男児*1名(第46週)
 - 仙台管内 男性2名、女性1名
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症(O型不明)
- 栗原管内 男性1名
- 4類感染症: レジオネラ症
- 塩釜管内 男性1名(第46週)
- 5類感染症: アメーバ赤痢
- 仙南管内 男性1名
 - 仙台管内 男性1名(第45週)
- 侵襲性肺炎球菌感染症
- 塩釜管内 女性1名(第43週)
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症
- 仙台管内 男性1名
- 梅毒
- 仙台管内 男性1名(第46週)

今週のインフルエンザによる入院患者報告(仙台市を含む基幹定点報告) 1例

今週の感染症のコメント
- 宮城県感染症対策委員会情報解析部会 -

- [手足口病]
栗原管内で警報継続中。
[流行性耳下腺炎]
気仙沼管内で警報継続中。
[伝染性紅斑]
登米管内で警報継続中。

【病原体検出情報】

- ~宮城県保健環境センター~
感染性胃腸炎集患者より
塩釜管内 第43週採取分 ヒパレコウイルス(型不明) 遺伝子 1件
~仙台医療センターウイルスセンター~
第45週採取分 第46週採取分 第47週採取分
(11.4~11.10) (11.11~11.17) (11.18~11.24)
2件 1件 2件
RSウイルス

【感染性胃腸炎】

感染性胃腸炎の患者発生は、例年12月中旬頃にピークとなる傾向があり、本年も、第42週以降、患者届出数に増加傾向が見られている。先日、宮城県においても、ノロウイルスを原因とする集団感染が疑われる事例があり、流行の拡大が懸念される。厚生労働省は、11月20日に「感染性胃腸炎の流行に伴うノロウイルスの予防啓発について」事務連絡を行った。今後、ノロウイルスによる感染性胃腸炎が急増するシーズンに備え、手洗いの徹底など感染予防に努める必要がある。
※ノロウイルスに関するQ&A (厚生労働省)
<http://www.mhlw.go.jp/topics/shokuchu/kanren/yobou/040204-1.html>